

原村の地域おこし協力隊が発行するかわらばんのことです。
原村で暮らす、おもしろくて素敵なひとを紹介します。



「Cocotto Village」 角谷 智子さん(60)

長崎県出身。横浜市青葉区から7年前に原村へ移住。

「暮らすようにステイする 農家民宿」

ココットビレッジをご夫婦で運営されている。

facebook:<https://www.facebook.com/cocottovillage489>

美しい原村が大好きだから

次世代に残す責任が私たちにはあると思う。

都会で精力的に働き、海外生活も経験された角谷さん。ご主人の早期退職がきっかけで都会での暮らしを卒業し、野菜を自分たちで作ったりしながら自然のサイクルに合わせた生活をしたいと考えるようになった。

田舎暮らしをする土地を八ヶ岳周辺と九州の阿蘇で探し始め、原村へ来た時に「空間が広く開けていて、他とは違う！」と感じ、すぐに気に入った。海好きのご主人を説得し、原村への移住を決意。

「出会いに恵まれて本当にありがたい。原村の魅力はなんと行っても人ですね。人は宝物です！」と語る角谷さん。

移住した当初、お米や野菜のつくり方を教えてくれた先生、家の設計をしてくれた方などとの出会い、地元の方とのお金では買えない価値の交換や交流ができたことが、本当によかったと教えてくれた。都会から原村を訪れ移住を考えている人たちに、自分が体験したような良い出会いを提供したいと考え、ただの宿泊施

設ではなく、交流の場としてカフェスペースを作り、ワークショップ等で使ってもらえるように貸し出しもしている。

また原村の美しい景観は、もともといる農家さんたちのお陰で保たれていると感じ、感謝の気持ちを抱くようになった。「美しい原村を次の世代に残すことが私たちの役目でその責任があると思う。村の子供たちに原村を大好きになってもらい、将来いろんな形で村と関わってほしい。」と角谷さん。そのためにも住民として村を美しくするためにどんどん声を上げていきたい！と、とびきりの笑顔で伝えてくれた。慈愛深さと強さを備えたその姿に『母親』の逞しさを見た気がした。

*

いつも元気で笑顔が素敵な方という印象の角谷さん。生活を楽しみながら、更に良くしていこうという姿勢で、日々暮らしている。忙しい中でも常に笑顔絶やさず、楽しそうな角谷さんにつられて、人が集まり、良い連鎖が生まれている。